

ディレクター日誌 (活動・研修生の様子)

期 日：前期：平成29年10月14日(土)～15日(日)【1泊2日】

場 所：山口市二島地域交流センター周辺(山口市二島)

参加者：小学校5・6年生16人(男子7人、女子9人)

1日目「開会式・仲間づくり・果樹園と竹林での仕事」

期 日：平成29年10月14日(土)

場 所：二島地域交流センター～果樹園～竹林

テーマ：「仲間との出会い、そして、仕事を知る」

【活動の様子】

平成27年に県内2ヶ所(周防大島・長門)で始まったジョブプログラムも今年で3年目を迎え、今年から県中央部エリアの山口市に場所を移し始めました。開催が県央ということで、県全域からの多数の応募者があり、その中から16人の子どもが参加することになりました。場所は、セミナーパークが近くにあり、海にも山にも近い、そして平野の広がりを感じられるところです。

テーマは、『SHOKUで旅する2日間、とことん味わおう～体で働く、頭で働く、心で働く。「職」から「食」へ。仲間とともに』です。

豊かな自然の残るここ山口市秋穂二島で、仕事をさせていただけるようお願いをして、班の仲間と共に働き、その労働の対価として食料をいただくプログラムです。山口市外から来た子どもたちがほとんどで、初めての出会いという不安と期待につつまれる中でスタートしました。

しかし、一番の心配ごとは、天候でした。天気予報は、曇りのち雨ということで、いつ雨になってもおかしくない雲行きでした。これが、自然の厳しさであろうか…。天候によっては仕事の内容も変わるといった、状況に応じた判断も求められるため、スタッフの間にも緊張感がありました。

開会行事も終わり、この場所で初めて顔を合わせた子どもたちの活動は、まず、2つのグループに分かれての仲間づくりから始まりました。子どもたちの表情は硬く、緊張感がみなぎっています。早速、班ごとに円になってインストラクターの話を聞きます。

自己紹介をした後、キャンプネームを決めます。子どもたちが並ぶ円はやや大きく距離感がありましたが、プログラムが終わるころにこの円の大きさは、どれくらいになっているのだろうか楽しみになりました。名前を呼び合ううちに少しずつ緊張感がほぐれてい



きます。スタッフからは、多くの指示は与えられません。「職」から「食」を得るという説明を聞きます。「仲間を想う」・「人の役に立つ自分になる」・「食べる幸せを感じる」といったことを五感で感じることを目標とするといったものでした。

とはいうものの、子どもたちは、これからどこに行き、どんな仕事をするかも知りません。計画表には、午前と午後大きな仕事があるとだけ書かれています。とにかく、行動するしかありません。

最初のグループ活動のミーティングで子どもたちが個人やグループのめあてとしたことは、「時間を守る」「一生懸命働く」「話を最後まで聞く」といったものでした。子どもたちにとって、先が見えない状況の中で、精一杯の目標設定でした。

午前中は、果樹園に行きました。そこには、雑草におおわれた果樹園の木と山積みのたい肥が置かれていました。そこで、東京ドーム6個分の農地を経営されている野島さんと出会いました。

子どもたちは、ぎこちなくそろわない声でいっせいに、「仕事をするので、何か食材をいただけないでしょうか。」とお願いをし、仕事は始まりました。

初めにたい肥の話を聞きました。野島さんがたい肥を一握りし、「これは、くさくないんよ」と話されました。なぜ、くさくないのかという理由も聞きました。このたい肥も自家製のものです。

仕事の内容は、まず、初めに丁寧に雑草を抜き、木の根元にたい肥を置くというものでした。雑草の中にも食べられるものがあるという話も聞きました。たい肥は、幹にあたらないように周辺に丁寧に置きます。幹に虫がつかないようにするためです。

子どもたちは出会って間もないですが、たい肥を一輪車に乗せる人、それを運んで撒く人と役割分担をして仕事をこなしていきます。声を掛け合う姿も見られ始め、協力しながら熱心に取り組む姿が見



られました。仕事をする中で、ただ仕事をするのではなく、物事にはいろいろな理由や無駄にならないような活用があることに気づきました。そして、丁寧に仕事をする大切さも学びました。丁寧な仕事は、手でしかできないこと、そのことがだれかに喜んでもらえることに繋がることを野島さんから教えていただきました。

こうして、午前中の仕事が終わりと、昼食になりました。食事の前に行ったグループ内の振り返りでは、グループの皆で動かないと仕事がうまくできなかったことや協力することの必要性について話題が集中しました。子どもたちは、午前の仕事を通して、仲間や協力することの大切さに気づき始めました。

昼食は、ここへ来ての初めての食事になります。一人ずつのビニール袋に入れてある食べ物は、2回分の食料（1日目昼、2日目朝）になります。子どもたちは、食べ過ぎないように考えながら、食べていました。昼食はすぐに食べ終わり、午前中の振り返りが早速午後の取組に生かされていました。待っている間に自主的に草取りをしている班もありました。

午後からの仕事が始まりました。最初の仕事は、午前中と同じくたい肥を撒くというものでした。しかし、今度は袋に入ったたい肥を運びます。いつの間にか子どもたちは協力しながら運び始めました。大変な仕事でも、誰かと協力することで、やり遂げた後、皆で感動し満足感が得られました。

一日目の最後の仕事は、しいたけを竹林で育てる「しいたけ棚作り」の仕事でした。

野島さんから、「バズーカ」を持って来るように指示がありました。もちろん、子どもたちには「バズーカ」の意味はわかりません。

「バズーカ」とはしいたけの原木を立てる棚作りの杭打ちに使う物です。使い方を教えてもらいましたが、一人で使うのには、小学生では力不足です。自然と子どもたちからは、

「一緒にやろう。二人の方がいいよ。」



「ここを持って。その方が安定するよ。」
といった声があがりました。まさに仕事を通してお互いの関係が近くなっていく瞬間でした。

杭打ちの次は、ひもを結んで棚を仕上げます。

「だれか端っこを持ってよ。」

「重たい！手をかしてよ。」

声をかけると同時にたくさんの手が差し伸べられます。みんなで仕事をするということを楽しむ時間になりました。

「しいたけの棚作り」を通して人間関係作りを行うと同時に、山も人々の手が加われば、里山になり、いろいろなものが育てられることを知ることができました。

そんな中、一人の子がきのこを見つけ、食べられるものであるかどうかを野島さんに図鑑で調べていただきました。疑問を持ったときにすぐに調べるという姿勢を教えてくださいました。

一日の仕事が終わった後、野島さんは子どもたちの働きぶりに感動されたようで、子どもたちに感心したことをたくさん伝えてくださり、予想以上に多くの夕食用の食材を提供していただきました。いただいた食材の量について、「多い」「少ない」と子どもたちの思いは様々でした。自分の仕事への自己評価と野島さんからの評価が一致していなかったことは、働くことを考えるひとつのきっかけとなったようでした。

子どもたちは喜びながら、いただいた食材をもって、本部のある交流センターへ帰りました。作業中は心配していた天気も何とかもちましたが、どこで食事を作るか、テントをどこに張るか迷いました。雨雲レーダーによると雨雲が近づいていたので、食事は、センター前の軒先で作ることになりました。食事を作る活動は、仲間の結束を高めさせる大切な活動です。何を作るのかという話し合いは、自分の思いを出し合う場として、あるいは仲間の思いを尊重する場として、とても良い時間となりました。この話し合いが、グループのまとまりを高めるきっかけとなりました。また、テントは、本部スタッフで話し合い、安全・安心を重視して室内に張ることとしました。自然の厳しさは、味わえませんでした。が、ジョブの目的を重視し、スタッフの総意による判断・決定でした。実際、明け方に雨が降り始め、終日小雨の降る2日目を迎えることとなりました。

2日目「センターの掃除、牛のお世話、電線の張替え、昼食づくり」

期 日：平成29年10月15日（土）

場 所：二島地域交流センター周辺

テーマ：「振り返り、ジョブの総仕上げ」

朝から雨です。出発前にミーティングをしています。今までの振り返りを生かし、今日も、自分から進んでみんなのためにがんばろうと、話し合っています。こ



のころから、子どもたちは、「人はどうして働くのだろう」という疑問をもつようになりました。

1日目夜におこなったスタッフミーティングで、「ジョブの目的を達成するために一番重要なことは、仲間作りだ」と、スタッフの思いは一致していました。

来た時よりも美しくという気持ちで生活の場となった二島地域交流センター内の掃除を終え、さあ、2日目の仕事のスタートです。野島さんの事務所まで歩いていくことになりました。午前中だけの仕事になります。

2つの班に分かれて仕事を始めました。それぞれの班で、牛のえさを作り、牛に水をやり、ビッグサイズの入れ物を洗いました。

牛の近くに行くのが初めての子どもおり、

「ちょっと怖い。」

と言っていた子どもも、

「私は、水を入れる入れ物を洗う。」

と自分でできる仕事を見つけて取り組んでいました。

「ちょっと怖かったけど挑戦した。牛の目が優しくかったのでえさやりをした後も嬉しい気持ちになった」

「休日の無い牛のお世話の仕事は本当に大変だと思った」「おいしい牛肉になるのはたくさんの仕事や工夫があると思った」と、振り返りにおいても一日目よりたくさんの思いが出るようになりました。

牛は、人間の声や動作に敏感で、声をかけてから触る、ゆっくり動く、大声を出さないなどのアドバイスを受けながら、寝床の掃除もしました。牛もうれしそうでした。その後、牛が牧草地からでないようにと電線の張り直しをしました。普段、電線には0.8Aと12000Vの電気が流れているそうです。新しい電柱を立て400m以上張って、古いところはずしてまとめる作業をしました。

最後に、牧草の種を撒いて終了しました。とても広い範囲でしたが達成感がありました。一人で頑張ったのではなく、皆で力を合わせてやり遂げた仕事に対して野島さんからほめられた時、子どもたちのうれしさもこれまで味わったことのない喜びだったようです。

その後、野島さんから働くことについてのお話を聞き、今日の仕事の対価として、牛肉をいただきました。焼肉、昨日取ったしじみ汁、昨日もらったお米で食事をしました。

最後のプログラムとして、班ごとにミーティン



グを行い、この2日間で感じたことや学んだことについて振り返りました。「周りの人を幸せにするために働く」「ただ一生懸命働くだけではなく、仲間とともに力を合わせ働くことで仕事の成果が変わってくる」という感想がとても印象的でした。最初のグループミーティングで掲げた目標は、これまでの子どもたちの経験から出てきた目標でした。しかし、仕事（ジョブ）を仲間とともに行うことで、子どもたちは、自分だけが頑張るのではなく、グループ全体のことを考えることに気づくなど、仲間のことを想って行動するまでになりました。粘り強く頑張ること、自分の役割を意識すること、仲間と協力すること等、今回、体験を通して感じたことを、これからの生活に生かしてほしいです。

最後にスタッフの方、地域の方、家族に本当に感謝してすべてが終了しました。

【参加児童の感想より】

- ・人見知りが少しなくなっていたのでよかった。
- ・がんばる力が強くなりました。
- ・男子は女子を考え、女子は男子を考えながら活動しました。
- ・話したことない人でもすぐに仲良くなりました。
- ・自分から友だちに話せなくて、自分がまっていることに気付いた。
- ・男子も女子も関係なく協力することを学校のクラスでもその経験を活かそうと思いました。

